

令和7年度
学校評価報告書



久万高原町立柳谷幼稚園
久万高原町立柳谷小学校

1 学校評価の実施方法

以下の内容で保護者、学校関係者（学校評議員）、教職員、児童を対象にアンケートを行った。（児童は設問 15 まで）

2 実施期間 令和 8 年 1 月 15 日（木）～ 2 月 6 日（金）

3 評価アンケート様式

令和 7 年度 学校の教育活動に関するアンケート

【設問 1】柳谷小学校の子どもや柳谷小学校について

- よくあてはまる場合は ア
○ おおむねあてはまる場合は イ
○ あまりあてはまらない場合は ウ
○ 全くあてはまらない場合は エ に○を記入してください。

※ 評価しにくい項目がある場合は、記入いただかなくて結構です。

	評 価 項 目	ア	イ	ウ	エ
1	子どもは、楽しく学校に通っている。				
2	子どもは、学年相応に「読み、書き、計算」などの学力を身に付けている。				
3	子どもは、家庭で学習する習慣を身に付けている。				
4	子どもは、学年相応の体力を身に付けている。				
5	子どもは、友達とよく遊んでいる。				
6	子どもは、友達と仲よくしている。				
7	子どもは、家庭や地域でよく挨拶をしている。				
8	子どもは、根気強さを身に付け、たくましくなっている。				
9	教師は、健康で明るく元気に仕事をしている。				
10	教師は、熱意をもって一人一人に応じたよく分かる授業をしている。				
11	教師は、子どものやる気を引き出す工夫をしている。				
12	教師は、子どもを鍛える場を設けている。				
13	教師は、子どもをよく理解し、愛情をもって接している。				
14	教師は、子どもの間違った行動には厳しく指導している。				
15	教師は、子どもの能力や努力を適切・公平に評価している。				
16	学校は、どのようなことに力を入れて取り組んでいるかを分かりやすく伝えている。				
17	学校は、地域を生かし、特色ある教育活動をしている。				
18	学校は、家庭や地域と連携し、相互に協力して教育活動を進めている。				
19	学校は、幼稚園と連携した教育活動をしている。				
20	学校は、相談や話をしに行きやすい。				
21	学校の施設・設備は、美化に努め、整備されている。				

【設問２】柳谷小学校公式サイト（ホームページ）をどの程度見ていますか？ ア ～ カの中から一つを選択して○を付けてください。 ア ほぼ毎日 イ 週２～３回程度 ウ 週１回程度 エ 月１～２回程度 オ ほとんど見ない カ 見たことがない		
【設問３】本校に対して、よいと思われることがありましたらお書きください。		
【設問４】学校教育をよりよいものにするためのご意見がありましたらお書きください。		
【設問５】その他、お気付きのことや感想等がありましたらお書きください。		

4 結果について

(1) 【設問１】の考察

- 多くの項目で、児童、保護者・地域、教職員ともに、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と評価されており、本校の教育活動について総じて肯定的な評価が認められる。
- 保護者・地域（学校評議員）からの評価で特に高かったのは、「５ よく遊ぶ」「６ 仲よくする」「１９ 幼・小との連携」の項目である。これらの項目の評価は3.8となっており、最高評価の4に近い評価である。項目５・６については、保護者からの自由記述からも、児童が家庭で全校遊びのことについて楽しそうに保護者に伝えていることがうかがえる。また、項目１９については、幼・小が合同で行う行事が多く、さらに、日頃から休み時間等に園児と児童と一緒に遊ぶことも多いことから、高い評価につながっていると考ええる。これらの項目は、地域の評価も高くなっており、本校ホームページにおいて、授業や学校行事、休み時間の様子など、教育活動全般について積極的に発信してきたことが寄与していると考ええる。

一方で、評価が比較的低かったのは、「３ 家庭学習の習慣」「１１ やる気を引き出す工夫」の２項目であった。項目３については、児童が家庭で学習する姿を保護者があまり見ていないことが一因と考えられる。児童の多くは帰りのバスが来るまでの時間に宿題を済ませてしまうことも多く、家庭での学習時間が少なくなっている可能性が考えられる。しかし、宿題を忘れてくる児童も見られることから、家庭での学習習慣が身に付いていないところは課題である。また、項目１１については、項目３との関連も大きいと考ええるが、参観日の授業の様子や児童が家庭で話す内容から、授業において教師の「やる気を引き出す工夫」が十分ではないと捉えられていることが推察される。今後は、児童の興味・関心を高めるとともに、「わかった」「できた」と感じられるような授業へと改善を図っていく必要がある。

- 教職員の評価では、「５ よく遊ぶ」「６ 仲よくする」「１５ 公正・公平な評価」「１７ 特色ある教育活動」「１９ 幼・小との連携」の項目が高かった。まず、項目５・６が高評価となったのは、休み時間に園児・児童と教職員が体育館や運動場で一緒に遊ぶ機会を多く設けたことが挙げられる。また、職員会や終礼で個々の園児・児童への配慮事項を共有し、共通理解を持って全校体制で指導に当たったことも大きい。次に、項目１７については、地域連携教育を推進し、地域人材や地域教材などの教育資源を効果的に活用した学習活動を展開してきたことや、川下地区の小・中学校との交流を活発に行い、教育活動の充実が図られたことが要因として考えられる。最後に、項目１９については、幼稚園と小学校が同じ校舎にあるという環境を生かし、合同で行事を実施するだけでなく、休み時間に園児と児童が自然に交流できる機会が日常的に確保されていたことが要因として考えられる。

一方で、「２ 読み書き計算の学力」「３ 家庭学習の習慣」の項目において、低い評価となっている。これは、少人数であることを生かし、個に応じた丁寧な指導を心掛けているものの、各学年に応じた基礎学力の定着が十分ではないという捉えからである。今後は個々の児童の実態やつまづきにに応じた学びや、１人１台端末を活用したドリル学習等に取り組ませるなど、繰り返し学習して学力定着を図ることに力を入れる必要がある。また、宿題をやってこない児童も見られ、このことが学力定着につながらない要因として考えられる。今後は、家庭とより一層連携をしながら、家庭学習の習慣を確立できるよう努めたい。

- 児童の評価では、昨年と同様に「５ よく遊ぶ」「６ 仲よくする」、そして、今年度新たに「１１やる気を引き出す工夫」「１３ 子ども理解と愛情」の項目が高くなった。項目５・６については、教職員の評価にもあったように、休み時間に園児・児童と一緒に遊ぶ機会がたくさんあったことが楽しく有意義な時間となり、高評価につながっていると考える。また、項目１１については、教職員が日頃から教材研究や授業準備等を熱心に行い、ＩＣＴ機器の活用を積極的に図りながら「分かる・できる」授業を心掛けて取り組んでおり、その努力を児童が評価していると考えられる。そして、項目１３については、少人数であり教職員と児童の距離が近く、何でも話せる関係を築けていることが大きいのではないだろうか。また、定期的に生活アンケートを行い、その結果を基に教育相談を行っていることも高評価につながったと考えられる。

(2) 【設問２】柳谷小学校公式サイト（ホームページ）の閲覧状況

	保護者・地域	教職員	児童
ア ほぼ毎日	0%	33%	0%
イ 週２、３回くらい	0%	17%	0%
ウ 週１回くらい	20%	33%	10%
エ 月１、２回くらい	80%	17%	22%
オ ほとんど見ない	0%	0%	34%
カ 見たことがない	0%	0%	34%

今年度は、ホームページを毎日更新し、教育活動の様子や園児・児童の姿を積極的に発信してきた。アクセス数は一日当たりおよそ100件前後で推移しているものの、保護者や地域の方々の閲覧はまだ十分とは言えない。今後も継続して周知を図り、より多くの方に見ていただけるよう努めていく必要がある。また、移住を検討する方々が本校のホームページを閲覧する可能性も踏まえ、本校の特色や魅力ある教育活動を分かりやすく紹介する記事づくりに努め、関心を持っていただけるよう工夫していきたい。

(3) 【設問3】よいと思われることに対する意見

(保護者・地域)

- 学年を越えて全校で遊ぶなど、みんなが仲がよい。
- 人数が少ないので指導が個別的に対応できている（丁寧に関わってくれている）。
- 幼稚園へ行き来できるのがよい。
- 「全校遊び」の話を子どもが家で楽しそうに伝えてくれ、学校での楽しい様子がよく分かる。
- 全校で一緒に活動する機会を設け、少人数ならではの関わりができています。
- 子どもの様子をしっかりと受け止め、その都度状況に応じた子どもへの関わりをしてくださっている。
- 特定非営利活動法人TETOTEと良好な付き合いをしている。
- 少人数ならではのきめ細かい教育がなされている。
- 児童たちに寄り添った教育がなされている。

(教職員)

- 幼稚園を含め、職員間の連携がよくとれている。
- 幼・小の交流が日常的に行われている。
- 児童一人ひとりの状況に合わせた教育を行っている。
- 先生たち全員で、全員の子どもたちを温かく見守り、育てようとしている
- 幼稚園児から6年生まで、幅広い年代の子どもたちが一緒に遊ぶためのきまりや場を工夫し、週3日遊んでいるのがよい。
- 些細な疑問でも気兼ねなく質問できる職場の雰囲気、日々助けていただけるので、非常に働きやすい職場であるところ。
- 先生方が日々児童の実態に合った指導をされているところ。
- 教職員の雰囲気が温かく、働きやすいところ。
- 小規模校ならではの教育活動があり、子どもも大人も楽しく学校生活を送ることができるところ。
- 教職員が協力・連携を取りながら児童や保護者に関わることができているところ。
- 児童9名が仲よく楽しく元気に過ごしており、素直で明るく、優しい児童がたくさん育っていること。

(4) 【設問4】学校教育をよりよいものにするための意見

(保護者・地域)

- お箸の持ち方が家でもなかなか上手にできない。上の子のとき、学校でお箸の検定をしていたそうです。ゲーム感覚でみんなが取り組むと上手に持てるようになるのではないのでしょうか。
- 学校を休みがちなお家庭があることを地域の方も気に掛けています。多様化の時代なのでいろいろな教育方針を持っておられる親御さんもおられると思いますが、教育の機会を奪わないように学校の先生方も支援をしていただければ幸いです。
- 小規模校ならではの苦労もあると思いますが、先生方が無理をなさらないようにしていただきたいです。

(教職員)

- 小規模校ならではの問題かもしれませんが、先生方お一人に対する校務分掌が多いため新しく赴任された先生が慣れるまで大変そうである。

5 まとめ

今年度は、4月の始業時より全校児童が9名となり、昨年度と比べても、子どもたちの元気な声が響く活気あふれる学校となりました。教職員も1名増員され、それに伴い教職員一人当たりの校務分掌の負担も軽減されました。その結果、全体的なゆとりが生まれ、教育活動のより一層の工夫と充実を図ることができたと感じています。

また、今年度もこれまでと同様に、温かく協力的な保護者や地域の皆様のおかげで、地域の教材や人材といった教育資源を活用し、体験を通じた貴重な学びを子どもたちに提供することができました。さらに、川下の小学校や中学校との交流学习を充実させたことで、多くの人と関わり多様な考えに触れながら、自らの学びを深める機会となり、子どもたちの成長へとつなげることもできました。保護者や地域の皆様、川下の小・中学校の皆様の皆様のご支援、ご協力に改めて感謝を申し上げます。

さて、今回のアンケートにより、今年度の本校の教育活動について児童、保護者、地域の皆様から肯定的なご意見をいただくとともに、改善の必要を示唆する貴重なご意見もいただきました。これらのご意見を真摯に受け止め、教育活動を改めて振り返りながら、教職員が知恵を出し合い、具体的な改善策を講じてまいります。

今後も、「へき地」「少人数」といった本校ならではの特徴を生かし、地域と連携した教育活動を更に工夫しながら「柳谷だからこそできる教育」「柳谷でしかできない教育」の実現を目指してまいります。そして、本校の教育目標である『ふるさとを思い、心豊かにたくましく生き抜く児童の育成』に向けて、教職員が一丸となり取り組んでまいります。